

2021年3月吉日

NPO 法人 UBOM 研究会 会員各位、

**6月5日に第2回の「UBOM 検査発展的改訂の方向性と具体案検討会」を
オンラインで開催します**

UBOM の普及と UBOM 研究会の事業につきまして、ご理解とご協力をいただきまして感謝申し上げます。さて、昨年9月に「UBOM 検査発展的改訂の方向性と具体案検討会」を開催し、有意義な議論の場となりました。そこで、今年の6月5日に第2回をオンラインで開催することとなりましたので、御案内いたします。

UBOM につきましては、その①包括的精神機能評価の有用性、②簡便性、③当事者の評価への参加意思の尊重と共同意思決定 (SDM, Shared Decision Making) のツールとしての有用性、④①と多少重なりますが主観的心理世界 (知・情・意・想の想) の評価の重視という特徴により、その意義を評価され、ある程度普及してまいりました。

しかし、他方では、a)信頼性、内容的妥当性評価が十分には行われていない、b)バウムテスト評価法の習熟に時間がかかる、c)脈拍変動検査結果 (PRD, Pulse Rate Difference) が検者-被検者関係、検査場面などのいろいろな刺激により非常に鋭敏に変動する (検査目的からして変動することは当然だが相当に鋭敏) ことが指摘されてきております。

上の①~④に述べました UBOM 検査の良い特徴を生かしつつ、挙げられてきております問題点を解決し、UBOM 検査が一層普及し当事者の社会参加とリハビリに貢献できるようにすることが「UBOM 検査発展的改訂の方向性と具体案検討会」の目的です。

昨年の検討会では次のことが議論されました。

- ・脈拍変動検査成績 (PRD, Pulse Rate Difference) を安定化するために、刺激の種類や加え方を変更することに意味があるか？
- ・刺激処理系を反映する生理指標として PRD 以外の生理指標を計測することを検討してはどうか？
- ・バウム・テストの描画の質判定 (普通画、異型画) を機械学習により自動化して、質判定の習熟に長時間を要する問題を解決してはどうか。
- ・バウム・テストの意義を高めるために、バウム・テストの描画の質判定結果からその被検者の精神機能、社会生活機能を予測する法則性を経験的に発見することが求められているのではないか。
- ・バウム・テストの目的である表象系の簡易な視覚化 (あるいは外界へ投影して客観化) を、バウム・テストのほかの検査で行うことができれば、描画の質判定に伴う問題点を解決できるのではな

いか？

・表象系機能を視覚化して表象の中身を評価する以前に、表象系が正常に機能しているか否かを吟味する検査を行う必要はないのか？

・乱数生成検査成績が意味することを深めるために、乱数生成検査により把握できる前頭葉機能と、「老婆と若い女」、「ルビンの壺」の絵により把握されるゲシュタルト反転の頻度、メンタルローテーションの正確さの間に関係があるかを検討する必要はないか？

・乱数生成検査成績が意味することを深めるために、乱数生成検査成績とバウム・テストによる描画の質の間に関係があるかを検討する必要はないか？

これらの論点はいずれも UBOM-4 の発展的改訂や普及のうえでも、人の精神機能を生理学的に理解するうえでも、重要で興味深い論点であると思われます。第2回の「UBOM 検査発展的改訂の方向性と具体案検討会」でこれらの論点が体系的に深められることを期待しています。是非、多くの会員の皆様が参加いただけるように御案内いたします。詳しくは以下の要項をご覧ください。

NPO 法人 UBOM 研究会
理事長 丹羽真一

記

- 1 名称 第2回「UBOM 検査発展的改訂の方向性と具体案検討会」
- 2 日時 2021年6月5日（土）
午後1時オンライン会議の参加開始、
午後1時30分～5時30分 会議のスタートと意見交換
午後5時30分 終了
- 3 開催方法
オンライン（Zoom）を使用いたします。
参加申し込みいただきました方々に招待をお送りいたします。
- 4 費用 参加費は無料
- 5 参加申し込みは下記の申し込み様式に記入し、メールかFAXにて5月21日（金）までに、UBOM 研究会事務局あてお送り願います。
メールアドレス： UBOM 研究会事務局 ubom@fmu.ac.jp
FAX 番号： 024 - 573-1480